

話すこと 5

話す内容が思い浮かばない

全 … 学級全体に対する指導や支援

個 … 個人に対する指導や支援

話す内容のイメージが持てない場合

①様々な例を聞かせ、「自分だったら何を言うか」を考えさせる。全

どのようなことを話せば良いかイメージが持てないために、自分のことを話せないことが考えられる。Small Talkなどを活用して教員やALT、他の児童が話す姿を見せ、同じ話題でも様々な話ができることに気付かせる。様々な例を聞くことが、「自分だったら何を言うか」を選んだり、考えたりする際の材料の1つになる。

②友達と繰り返し対話する活動を設定し、イメージを広げる。全

語句や表現に慣れ親しむ段階で、歌やチャンツだけでなく、「夏休みに行った場所が同じ友達を見付けよう」などの課題を設定し、児童同士が対話する活動を取り入れる。児童は、たくさんの友達と“I went ~.”を使って対話をする中で、表現に慣れ親しむとともに、様々な場所のことを話せることに気付くことができる。また、児童は簡単な課題に取り組むことを通して、話題に対するイメージを広げ、単元の終末で何を話すかを考える際のヒントにすることができる。

話す内容を整理できない場合

①話したいことをワークシート等で整理する場面を設ける。全・個

単元の学習を通して慣れ親しんだ語句や表現を使って、単元の終末に発表ややり取りを行う際、話す内容が整理できないために自分のことを話せないことが考えられる。イメージマップやクラゲチャート、Xチャートなどを活用したワークシートを用意し、自分が伝えたい内容を整理する場面を設ける。内容を整理することで、自分が伝えたいことを話すには慣れ親しんだ語句や表現のどれが使えるかを考えることができる。

②話す際に使うイラストや写真、実物などの具体物を用意させる。全・個

実物やイラスト、写真などの具体物を見せながらやり取りや発表をさせると、聞く側が内容を推測し、発表内容を理解する手掛かりとなる。そのためのイラストを描いたり、写真や実物などを用意したりすることで、話す側の児童は伝えたいことは何か、それを見せながらどのようなことを話すかなど、話す内容を整理することができる。また、やり取りや発表の際に英語を忘れそうになっても、具体物が手元にあることで話す内容を想起できるので、英語を思い出す手掛かりになる。